

【目次】

1. 企画展「日本のメーデー100年—自由と団結の旗のもと—」が閉会、6月30日！
2. 新しい企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ」が7月6日からスタート！
3. 当歴史館は6月に資料、書籍の寄贈を受けました！
4. 連載「日本労働会館物語」—日本労働会館を巡る裁判とは—！

1. 企画展「日本のメーデー100年—自由と団結の旗のもと—」が閉会、6月30日！



友愛労働歴史館が開催中の企画展「日本のメーデー100年—自由と団結の旗のもと—」(2020.1.6~6.30)は、本6月30日(火)に閉会しました。

企画展「日本のメーデー100年」は新型コロナウイルスに伴う政府や東京都の自粛要請などがあり、3月30日(月)から5月31日(日)の間、臨時休館を実施しました。このため多くの皆様に来館、見学いただける機会が少なくなりました。

また、オープン中も来館者・見学者には①体温測定への協力、②発熱がある方や咳、くしゃみ、鼻水、咽頭痛などの症状がある方へのご来館遠慮のお願い、③来館時の手指消毒へのご協力、④入館時・見学時のマスクの着用などをお願いし、不便をおかけしました。

なお、新しい企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ—1946~1950年の労働運動—」(2020.7.6~12.8)の準備のため、7月1日(水)から7月5日(日)の間、臨時休館いたします。ご了承ください。

2. 新しい企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ」が7月6日からスタート！



友愛労働歴史館の新しい企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ—1946~1950年の労働運動—」(2020.7.6~12.8)が、7月6日(月)からオープンいたします。

日本の労働運動は戦後のGHQによる民主化、労働運動の解放によりスタートしています。1946(昭和21)年、新しい中央労働団体として労働組合主義の総同盟(日本労働組合総同盟)と階級的組合主義の産別会議(全日本産業別労働組合会議)が誕生します。

産別会議は戦後労働運動を主導しますが、2.1ストの失敗や4月の参議院選挙や衆議院選挙での日本共産党の敗北を契機に、共産党の組合支配に反対する民主化運動が起きます。その結果、1949年12月に新産別(全国産業別労働組合連合)が誕生し、さらに民主化グループと総同盟・新産別などにより1950(昭和25)7月、総評(日本労働組合総評議会)が結成されます。

本企画展は総評結成70年を記念し、総同盟・産別会議の結成から、新中央労働団体の新産別・総評が結成されるまでの5年間(1946~1950)の日本労働運動を、産別民主化運動と総評の結成を中心に国際労働運動へも言及しつつ、紹介しています。

3. 当歴史館は6月に書籍・資料の寄贈を受けました！

友愛労働歴史館は6月に梅澤昇平氏（当館研究員、尚美学園大学名誉教授）より政治社会運動関連書籍やビデオテープの寄贈を受けました。同月、寺井融氏（ジャーナリスト、大学講師、元民社党・新進党本部）から政党関連資料の寄贈を受けました。

また、6月22日の週、JAM（旧ゼンキン連合）の労働協約を研究する大学院生の訪問を受け、当館書庫の閲覧室を提供しました。

4. 連載「日本労働会館物語」第78回—日本労働会館を巡る裁判とは—

今年は総評結成から70年（1950年7月11日）、そのため友愛労働歴史館は新しい企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ—1946～1950年の労働運動—」（2020.7.6～12.8）を計画しています。その企画展準備のため総評関連資料（『総評10年史』『写真で見る総評30年史』など）を見ていたら興味深い事実を確認しました。

日本労働会館（現在の友愛会館。前身は旧ユニテリアン教会・惟一館）は友愛会発祥の地であり、友愛会・総同盟が本部を置いていたところ。戦後は総同盟会館や全織同盟会館が置かれ、後に同盟が本部を置いたため、この地は長く友愛会・総同盟・同盟系の牙城とされてきました。

しかし、実は総評ゆかりの地でもありました。1950年の総評結成を主導したのは総同盟であり、総同盟は総評傘下の最大組織でしたから、総評本部は最初、当然のように総同盟会館内に置かれました。また、総評の初代事務局長は総同盟本部の島上善五郎であり、総評第二代事務局長は総同盟総主事（書記長）の高野実ですから、総評は総同盟と当時の有力単産（全織同盟・海員組合・炭労・国労など）が設立した中央労働団体と言うこともできます。

このような設立の経緯から総評本部が総同盟会館内に置かれたことは自然なことであり、労働運動関係者にはよく知られていた事実。しかし、建物の所有権を巡り、総評が裁判を起こしていたことは余り知られていませんでした。

『総評会館30年沿革史』（総評会館編・1985年刊行）に裁判に関連する記述があり、「片方で裁判をやっているわけです。芝のあそこの会館が54年から着工して、55年に出来上がったわけですが、その前のときに、昭和27年ですか、三田の会館の裁判で負けたんですよ。・・・負けてあそこから出ざるを得ないということで、会館をあそこの芝につくることになったわけです」との簡単な記述があります。

この事実は当歴史館として関心があり、裁判関連資料を収集したいと思います。本裁判に関する情報や資料をお持ちの方は、ぜひ友愛労働歴史館まで電話かEメールでご一報ください。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuairekishikan.com>

惟一館から125年、友愛会から107年
